



PRESS RELEASE

岡山大学記者クラブ 御中

令和 5 年 7 月 28 日

岡 山 大 学

**令和 5 年度大学教育再生戦略推進費「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に岡山大学を主幹校とする中国・四国の拠点が採択
～誰一人取り残さないがん対策を推進するために～**

◆発表のポイント

- ・文部科学省が公募していた令和 5 年度「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」に、岡山大学を主幹校として中国・四国地方 9 県の 11 大学が連携した中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアムのプロジェクト「地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成」が採択されました。
- ・「次世代のがんプロフェッショナル養成プラン」事業（以下「がんプロ」）は、2023 年 3 月に閣議決定された「第 4 期がん対策推進基本計画」の人材育成強化の施策であり、がん専門医療人材を養成する拠点を大学間連携により形成することを目的としています。
- ・全国で 11 拠点が採択されており、「第 4 期がん対策推進基本計画」が目標としている「がん予防」、「がん医療」および「がんとの共生」を推進できるがん専門医療人材を育成して行きます。

<社会的な意義>

中国・四国地方 9 県全域にわたる 11 大学が連携することで、多くの山間地や離島など過疎化が進む地域へのがん専門医療人の配置を目指したがん医療の均てん化が期待できます。

がんは 1981 年以降、わが国の死因第一位の疾患であり、生涯のうちに約 2 人に 1 人が罹患すると推計されています。がんは国民の生命および健康を脅かす国民病であり、国が定めた第 4 期がん対策推進基本計画では、「誰一人取り残さないがん対策を推進し、全ての国民とがんの克服を目指す」として、「がん予防」、「がん医療」および「がんとの共生」の推進が目標とされています。

がん対策推進基本計画の発出と歩調を合わせてきた本事業は、がん専門医療人の養成を目的に平成 19 年に第 1 期がスタートし、平成 24 年に第 2 期、平成 29 年に第 3 期と続き、今回は第 4 期となります。連携大学で形成する「中国・四国広域がんプロ養成コンソーシアム」も、第 1 期の 8 大学から、第 2 期では 10 大学、そして今回第 4 期は新たに鳥取大学、島根大学を加えて 11 大学と進化してきています。そして、岡山大学は第 1 期から継続して主幹校を務めており、連携大学が増えるとともに、その企画や運営における役割はますます重要となってきています。

今回の「地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成」では、1) がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成、2) がん予防の推進を行う人材養成、3) 新たな治療法を開発できる人材の養成、を重要なテーマとして掲げており、それぞれの分野でがん医療の現場を支える多職種の人材教育や指導者育成を目指していきます。

急速な高齢化社会の進展により、がん医療を取り巻く状況は大きく変容してきておりますが、その時代のニーズを迅速に見極め、連携大学と協働しながらフレキシブルに対応していくことで、中国・四国地方のがん医療の発展に貢献していけたらと考えています。



PRESS RELEASE

以下に、それぞれのテーマごとに具体的な方向性を示します。

【がん医療の現場で顕在化している課題に対応する人材養成】

広域にわたる中国・四国地方は多くの山間地や離島などを有しており、特にこれらの過疎化が進む地域では充分ながん専門医療人の配置ができていないのが現状です。高齢化が進むこれらの地域では在宅でのがん医療が中心となることが多く、がん患者本人のみならず、その家族も含めた療養生活の質の向上を目指す必要があります。本拠点では、多彩なニーズに対応する高度な専門性の習得のみでなく、がん患者や家族の社会的・身体的・精神的ケアを幅広く行う全人的医療教育を行うことで、集学的な緩和ケアを実践できる人材を育成してきました。今回の本事業では、さらに緩和的使用を含めた高度な放射線治療を担う専門医などを積極的に養成していきます。また、コロナ禍で普及したオンライン・ネットワークを活用し、専門医が常駐できない過疎地においても細やかながん医療が提供できるオンライン診療を実践できる人材を育成します。さらに、人工知能（AI）技術を応用した画像診断やがん再発リスク評価を学ぶ教育科目も整備し、未来志向の人材育成も積極的に行っていきます。高齢者がん・緩和・在宅医療教育体制を再編し、系統的に老年腫瘍学・腫瘍循環器学などの教育科目を充実させることで、これらの新たながん関連分野にも対応できる専門医療人を育てます。

【がん予防の推進を行う人材養成】

本拠点では、がん遺伝子パネル検査の普及によるがんゲノム医療の進展に伴い、積極的にエキスパートパネル⁽¹⁾への陪席を推奨するなど遺伝子異常に基づいた個別化治療を実践できる専門医の育成を行ってきました。その過程で、偶発的に診断させる遺伝性腫瘍の未発症者の対応が不十分であることが明らかとなってきました。本事業では、新たに遺伝性腫瘍の遺伝子バリエーション⁽²⁾保持者を対象とした調査や遺伝カウンセリングに対応できる専門医・専門看護師の養成コースを多施設で共有できるコース（インテンシブコース）として設置し、倫理的・社会的課題を含めて学ぶことで、幅広いがん予防の推進につなげます。栄養学的視点からのがん患者の支援も重要であり、管理栄養士を対象とした「がん予防栄養学」などの履修科目も積極的に発展させていきます。さらに、医療データサイエンスに関する教育科目を充実させ、臨床医の医療ビッグデータの解析技術の向上を目指します。

【新たな治療法を開発できる人材の養成】

分子生物学的ながん研究の進歩により、がんの遺伝子変異やシグナル伝達経路の異常が発がんや悪性化につながるものが明らかになってきた。それらの情報に基づく個別化医療の開発が望まれているが、新たな創薬研究や医療機器開発には、十分な研究期間と承認審査までの段階的なプロセスの理解が必要です。本事業では、実際に開発段階にある治療用あるいは診断用医療シーズの臨床試験デザインの立案や実施計画書作成を体験させるとともに、レギュラトリーサイエンス教育を充実させることで科学的視点と行政的視点を習得させ、個別化医療の開発を推進できるがん専門医療人を養成します。また、がんゲノム医療と人工知能（AI）技術を融合したがんのリス

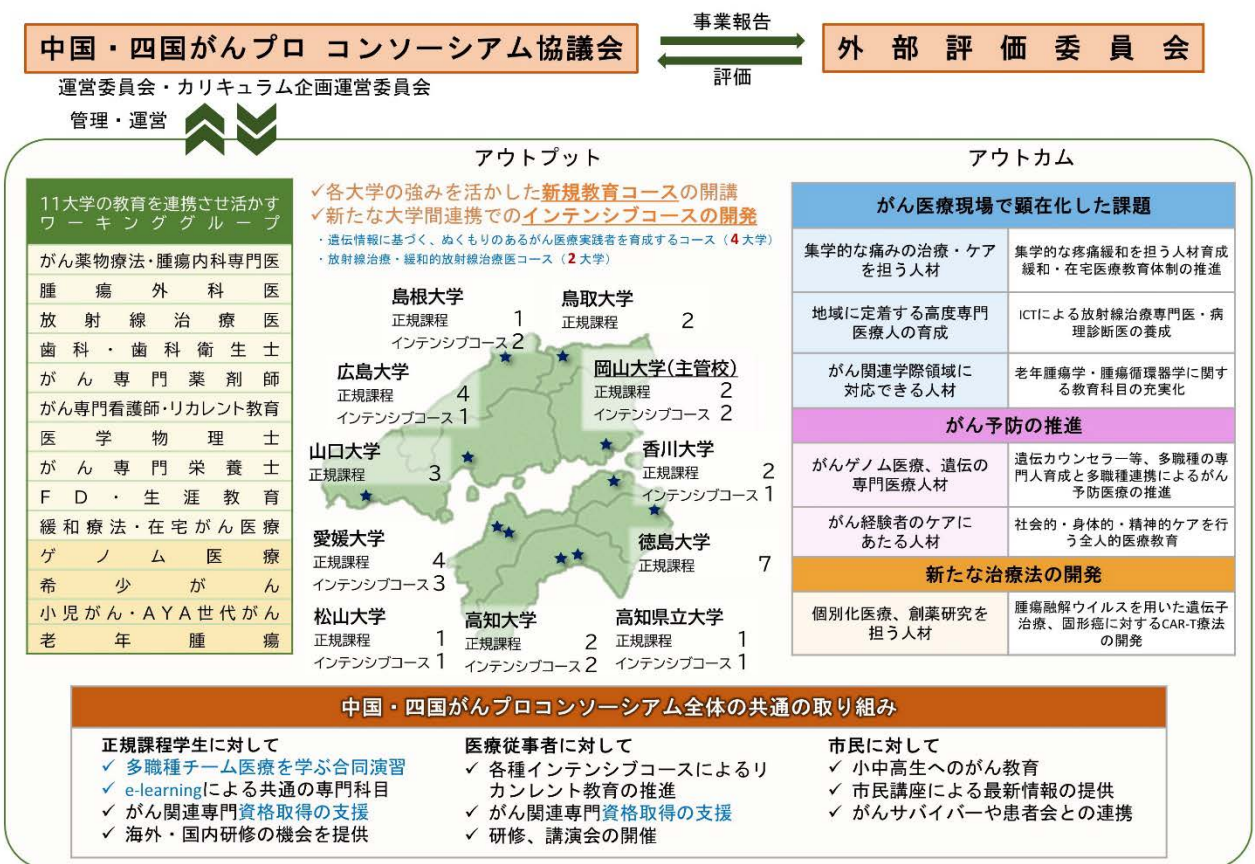


PRESS RELEASE

ク評価（再発予防）や高齢化社会に対応した体にやさしい遺伝子治療薬、ウイルス療法薬の開発、固形がんに対するCAR-T免疫療法の開発など、本拠点が得意とし全国に先駆けて推進してきた革新的医療技術開発を経験させることで、未来世代にふさわしい領域の高度がん専門医療人の育成を積極的に展開していきます。

令和5年度 次世代のがんプロフェッショナル養成プラン

地域をつなぐ未来世代のがん専門医療人養成



■補足・用語説明

(1) エキスパートパネル

がん細胞に起きている遺伝子の変化を調べ、がんの特徴を知るために行われる「がん遺伝子パネル検査」で得られた結果が臨床上どのような意味を持つのかを医学的に解釈するための会議。検出された遺伝子変異に対する意義付けや対応する薬剤の有無、さらには推奨すべき薬剤や臨床試験の順位付けを検討し、一人ひとりの患者さんに適した治療法を検討します。

(2) 遺伝子バリエーション

遺伝子がなんらかの原因で後天的に変化することや、生まれもった遺伝子の違いのこと。



＜お問い合わせ＞

岡山大学学術研究院医歯薬学域(医) 消化器外科学分野

教授 藤原 俊義 (事業責任者)

岡山大学病院 腫瘍センター

准教授 香川 俊輔 (事務局長)

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科

学務課長 成本 浩二 (事務担当者)

(電話番号) 086-235-7257 (FAX) 086-221-8775

(URL) <http://www.chushiganpro.ccsv.okayama-u.ac.jp/index.html>



岡山大学は持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。